

令和 2 年 7 月 8 日現在

機関番号：37112

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K17945

研究課題名(和文) 環境認証とEU/Switch-Asia プログラムの戦略性の研究

研究課題名(英文) Switch-Asia: An EU strategy on diffusion of Green Certification and Eco-labeling

研究代表者

渡邊 智明 (Watanabe, Tomoaki)

福岡工業大学・社会環境学部・准教授

研究者番号：00404088

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、「持続可能な消費と生産」(SCP)に関するEUの域外プログラムである Switch Asiaについて、EU(欧州連合)がプログラムを展開する政治的背景を明らかにしようとするものであった。本研究は、SCPに関するEUとアジア諸国の国際協力スキームであるSwitch Asiaが、EU域内の環境認証(エコラベル)を域外へ普及させる梃子として戦略的に利用されているのではという仮定から出発した。しかし、本研究課題において政治過程に関わるアクターの動向を検討した結果、EU域内の環境認証と関連付けた戦略性は明確には指摘できず、むしろ森林認証などの他の分野と方法論としての共通性が析出することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、「持続可能な消費と生産」の普及について積極的な役割を果たしつつあるEUの試みである Switch Asiaプログラムの検討を通じて、その仕組みや方法がEUの域内認証を他の地域にも普及させようとする「押し付け」ではなく、目標をベースとしながら域外国、さらにNGOとの間で柔軟な協力を企図するものであることを明らかにした。このようなEUの試みは、まだ規範レベルに留まっているSCPを実践する方法の例として日本政府やNGO、業界団体にとって裨益するものであることを示した。

研究成果の概要(英文)：In this research project, I explored the political background of EU Switch Asia program, interregional cooperation scheme on sustainable consumption and production, by examining the preferences of EU Member states, the Businesses, and NGOs. Especially, I addressed the question of whether EU had made attempt to promote their eco-label beyond the region utilizing the EU-Switch Asia program strategically. Based on this research project, I found that the EU did not have such a "blueprint" aiming a global eco-label and the EU as well as the EU Member states did not express any preferences for diffusing their regional eco-label over the EU territory. Moreover, I revealed that the EU Switch Asia program have much common in the mode of governance, "experimental governance" characterized with flexibility, trialing of multiple policy measures, monitoring goal, with the other international regional cooperation such as forest policy schemes tackling illegal logging.

研究分野：国際関係論

キーワード：Switch Asia 環境認証 EU エコラベル 公共調達

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年の国際関係論研究においては、NGOなど民間団体によるルール形成が注目を集めている。特に、ISO(国際標準化機関)をはじめ、FSC(森林協議会)などといったNGOによる規格、認証がグローバル・ガバナンスにおいて大きな役割を果たしつつあることが指摘されている。これは、経済のグローバル化の中で、市場に対応した製品やサービスに関する統一した規格や要請されていること、これら人権や環境への配慮などを、製品・サービスに反映させ、その情報を開示することに対するニーズの高まり、を背景として、専門性を有する民間組織が、グローバルなルール形成に大きな存在感を持つようになってきているという現実に由来する。このような動きに対して、国家や国際機関などの公的アクターは、これらの規格や認証を積極的に自らの政策に組み込み、活用する動きを見せている。例えば、公共調達における環境配慮基準としての民間認証の採用がそれである。

本研究課題は、このような国家の環境政策と環境認証など民間ルールが、結びつきを強くしていることに注目した。そして、特にこのような動きが顕著となっているEUの環境政策と環境認証(エコラベル)との関連を、標準化分野において見られるようなEUのグローバル標準の獲得を企図する戦略性という観点から理解することができるのではないかとこの着想を得るに至った。具体的には、EUがアジア諸国に対して、Switch Asia という「持続可能な消費と生産」(SCP)を支援するプログラムの設立したことは、このようなグローバル戦略の一端ととらえることができるのではないかと、いうものである。EUの公共調達におけるエコラベルの活用方法を普及させることで、EUの環境認証の認知度を高めて、グローバル競争において将来EUに有利な環境を創り出すことに資する、という戦略的連関が存在するならば、民間組織の認証する環境ラベルが決して中立的な指標としてではなく、それを普及させていこうとする各アクターの政治的道具としての側面を持つことになる。それは、EUというパブリック・アクターによる民間ルールの活用に関する実証的研究として示唆を与えうると考えられた。また、本研究課題は、EUのようなパブリックな国際制度とプライベート・ルールという公私の制度間の相互作用という点においても、1つのモデル・ケースをとって意味をと持つものと考えられた。

2. 研究の目的

2001年、欧州委員会は、「環境に配慮した公共調達ガイドライン」を示して以降、「グリーン公共調達プログラム」(GPP)を策定する中で、EUエコラベルを条件としないものの、公共調達とEUエコラベルの基準策定を共通の枠組みの下に実施し、積極的な活用を行ってきた。そして現在、アジア(15カ国)における消費者や中小企業、政策決定者に対して「持続可能な消費と生産」を促すSwitch-Asiaプログラムを設立し、EUはグリーン公共調達、エコラベリング制度などのプロジェクトに積極的に支援を行っている

本研究課題の目的は、EUがアジア太平洋地域における「持続可能な消費と生産」を支援することを目的として設立したSwitch-AsiaプログラムとEUの公共調達の政策との関連について検討し、その政治的背景を明らかにするものである。具体的には、EU公共調達においてプライベートな環境認証をいかに活用しようとしてきたか、その政策過程におけるアクターの動向、EUが支援するSwitch-Asiaプログラムにおいて、EU公共調達で重視される環境認証をどのような観点からアジア諸国へ普及させようとしているのか、という2点を検討し、環境認証を梃子にしたEUのグローバル戦略の背景を明らかにしようとするものであった。

3. 研究の方法

研究計画では、Switch-Asiaプログラムを推進するEUの戦略の背景を明らかにするため、大きく2つの作業を行った。第1に、EUのグリーン公共調達における環境ラベルや環境認証の活用に議論に対する欧州委員会、加盟国、産業界、環境NGO、などの認識および態度、動向を把握するための、各種の報告書、ポジション・ペーパー、業界誌の文献資料の収集である。これらの資料の収集においては、日本国内では、国立国会図書館・東京館において、動向を確認できる複数の業界誌など関連文献の収集を行ったほか、ベルギー・ブリュッセルのEC中央図書館や、ドイツ・デュッセルドルフのドイツ環境図書館において関係する文献資料の収集を行った。加えて、SCP政策について研究を行っているドイツ・ブッパータル研究所において資料収集の作業を行った。第2の作業は、Switch-Asiaプログラムに関する、欧州委員会および他のアクターの認識を確認するための、関連文献資料の収集およびステイクホルダーに対する聞き取りである。この作業の一環として、Switch-Asiaのパートナーであるネットワーク組織「アジア太平洋持続可能な消費と生産ラウンドテーブル(APRSCP)」の2017年次大会に参加した。ここで、アジアおよび欧州の関係者との交流を持つ機会があり、それを通じて、Switch Asiaの経緯やEUの政策との連動について確認する質問を行うことができた。また、EU本部において、EUの標準化担当者や環境総局担当者に対して直接聞き取りを行う機会を得ることができた。

4. 研究成果

上記のようなEU本部におけるEUの標準化担当者や環境総局担当者に対して直接聞き取りや関連文献資料を検討した結果、当初の着想と異なり、Switch AsiaプログラムとEU(欧州連合)の環境分野の標準化・認証政策の間に直接的な関連性を見出しがたいという結論を得るに至

った。ドイツの国際協力公社(GIZ)が Switch Asia に協力しており、ドイツでは、ブルー・エンジェルというエコラベルが普及していることから、特にドイツを中心に加盟国の戦略性の有無について詳細に検討したが、一貫した青写真を確認することはできなかった。また、上記の EU の担当者との応答を見る限り、EU 内でも Switch Asia に対する認知度は必ずしも高くなく、EU の開発政策の 1 つのパイロット・プロジェクトとしての位置づけを見ることが妥当であるという結論を導くこととなった。

このように、域内環境認証をグローバル・レベルで普及させるという点において EU の戦略性、一貫性は必ずしも析出しえないが、他方で、標準化ではなく、EU の他の政策分野における方法論という点で、関連性、共通性が明らかとなった。環境認証を活用している EU の森林政策などにおいては、域外との協力関係を構築する際に、EU 域内の規制との段階的な調整を重視、下位ガバナンスの自律性を尊重する「実験的ガバナンス」(Experimental Governance)という態様・方法がとられており、これまでの諸種の資料を検討する限りにおいて、Switch Asia プログラムもそのような実験的ガバナンスの態様を析出しうることを明らかにした。

このような結論を踏まえて、研究期間の最終年度である 2019 年度においては、2019 年 6 月の日本平和学会春季大会(福島大学)において「持続可能な生産の消費(SCP)アプローチの位相」というテーマで報告を行った。ここでの議論を受け、環境認証に対する域内のアクターの選好が明確化していない中で、EU が戦略を展開する十分な環境が醸成されてないのではないかという考察を加え、最終的に『社会環境学』に「持続可能な消費と生産(SCP)に関する EU 域外戦略—「実験的」ガバナンスの視点」からとして論文として刊行し、本研究の成果としてまとめるに至った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 渡邊智明	4. 巻 9
2. 論文標題 持続可能な生産と消費（SCP）に関するEUの域外戦略	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会環境学	6. 最初と最後の頁 35-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe Tomoaki	4. 巻 -
2. 論文標題 The Politics of EU Global Strategy on Standardization: Integration and Legitimacy in the Standard-Making Process	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 EUSAAP Conference Paper	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe Tomoaki	4. 巻 -
2. 論文標題 Shadows of Protectionism over Asia : Investment, Technical Barriers and Sustainability	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The 17th East Asian Seminar on the United Nations System Proceedings	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 渡邊智明
2. 発表標題 持続可能な消費と生産（SCP）アプローチの位相－EUの「実験的」ガバナンスを中心に－
3. 学会等名 日本平和学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊智明
2. 発表標題 気候ガバナンスにおける私的権威
3. 学会等名 日本国際政治学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Watanabe Tomoaki
2. 発表標題 The Politics of EU Global Strategy on Standardization: Integration and Legitimacy in the Standard-Making Process
3. 学会等名 EUSAAPConference2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Watanabe Tomoaki
2. 発表標題 Shadows of Protectionism over Asia : Investment, Technical Barriers and Sustainability
3. 学会等名 The 17th East Asian Seminar on the United Nations System , Session 4 (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Hori Shiro et al. eds., Watanabe Tomoaki (chp. 5)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 155
3. 書名 International Development and the Environment	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----